

## 第2回倉敷市総合計画審議会 第3分科会議事録（要旨）

会議名称		第2回 倉敷市総合計画審議会 第3分科会（生活環境・防災・都市基盤）
開催日時		令和2年1月24日(金) 13:00～14:55
開催場所		倉敷市役所3階第2会議室
出席者 ※敬称略	審議会 委員	板谷 利昭, 伊東 裕紀, 塩津 孝明, 平松 恵美子, 松岡 智子, 守屋 弘志
	市職員	企画財政部参事, 総合計画策定研究班員ほか担当部署職員, 事務局
関係者	関係者	委託事業者
傍聴者	傍聴者	なし
欠席者 ※敬称略	審議会 委員	田野 美佐
会議次第		1 開会 2 現況説明 3 意見交換 4 その他 5 閉会

1. 開会

2. 現況説明

(事務局が資料を説明)

3. 意見交換

分科会長 | 事務局の説明に対して、質問等はないか。

—質問なし—

分科会長 | では、お一人ずつ数分程度でご自由にお話しいただきたい。この分科会は、生活環境・防災・都市基盤と、分野の幅が非常に広いので感想等でもお願いしたい。

委員 | 本当に多岐にわたる問題がある。感じたこととして、第六次の計画から、次の第七次総合計画に向け、外国人労働者などは新たな問題だ。あと、高校生・大学生のアンケート結果が興味深かった。高校生のアンケートでは、子育て環境への不満が強い。これだけ、子育てするなら倉敷でと言っている倉敷市で、実際に育てている高校生が、不満を感じているというのは問題で、ここにどう力を入れていくのかが、まず大事かと思う。

また、多くの現状と課題があるが、わかりやすく、倉敷市に住んでいてよかったと思ってもらえる点として、「移動しやすい道路」、「公共交通などの環境整備」、「緑があってちょっと遊びに行ける公園、ゆっくりできる公園の整備」などが、最初に取り組むべき、過ごしやすいまちへの課題なのかと感じた。

委員 | 浸水対策、内水対策は雨水管理計画に基づいて行うのだろうが、水の出る先は決まっている。倉敷全体がプールというかマスのような状況で水が入ってくるので、排水対策が大切。対応としては田んぼダムや、根本の児島湖からの強制排水や、排水ポンプの整備、農業用水の吸い込み口を下げるなど、早めに水位を下げて排水させるなど根本的な方策をとることだ。

次に、事業ごみがいろいろ増えてきているのはなぜか。また、紙などのリサイクル率を上げるためには、例えば、何百キロ以上出せば、報奨金6円を6円50銭にするなど、大量に出してリサイクルをと思える単価の仕組みなどはどうか。

公共交通では、たまにバスに乗るが、近くのバス停の時刻を見ると1時間に1～2本。これでは利便性が悪く、乗りたくても乗らない、だから本数がなくなるという悪循環、イタチごっこだ。走っていれば乗るけども、走ってないから自分の車でという形になっていて、もう少しバスも走っていればとか、いろいろ課題もたくさんあると感じている。

分科会長 | 私も、高校生や大学生のアンケート結果に大変興味を持った。高校生・大学生のアンケート結果で、三大都市圏への就職希望者がもっと多いかと思っていたが、意外に、特に大学生は女子が多いからかそうでもない。男子学生が多いともう少し違う結果が出たかもしれないが。

高校生は、自宅から通えるところ、家族と一緒にいたいという希望者が思った以上に多いという印象だ。その希望をかなえられるような雇用先が多ければ、もう少し、高校生も大学生も変わってくるのではないかと思った。

和歌山の水道管のニュースを見て、真っ先に思ったのは、倉敷は大丈夫だろうかということ。公共交通機関は、私もバスを利用して、本数がどんどん減っていくという現状。例えば、人材不足を補うため、AIの活用や無人運転にするでもしない限りは、路線確保や本数の増加は難しいのではないかと思う。

委員 商工会会長という立場で、結婚・出産・子育ての希望をかなえるまち倉敷ということと、都市計画とまちづくりに関して、一番興味がある。

災害もあったが、真備町内で若い夫婦が出産したい、子育てしたい、倉敷市内等で働きたい。でも、近くに保育園等がないとか、交通網は便利だけど、移動距離が長い、就職先が倉敷駅の南側で大変などの問題がある。救急車や消防車も含め、駅の南北の移動は大渋滞でみんな苦勞している。倉敷市の都市計画、まちづくりで懸案の鉄道高架問題が早急に解決しないと、本当に分断されている。

また、なかなか結婚されない男性・女性も増えているが、結婚し、子どもを2人、3人と育てて人口が増えないと、今後の倉敷市のまちづくりも成り立たない。

水島コンビナートや関連企業など働く場は多く、人手不足で倒産もやむを得ないという企業も出ている。先ほどの、学生アンケートでは、給与面や休みが取りやすいなどの安定志向がうかがえるので、そういう企業が増えないと、小規模事業者も、ますます厳しくなる。生まれる子どもが増え、働く労働人口も増えるという活性化を起こさないと、今後、倉敷市の人口減少は加速するのではないか。

委員 クラレの工場はもともと酒津にあつて、玉島へ移転したが、社員の多くは倉敷に自宅を構えていて、通勤が大変になった。車の人が多いが、バス通勤は、一昨年くらいにバスの本数が減り、西行きのバスは結構混んでいる。公共交通の問題は根深いのではないかと思う。

大卒の社員は倉敷配属が多いが、転勤もあり、倉敷に家を建てる人ばかりでもない。晩婚化の影響か独身寮は一杯に近く、人口増にはなかなかつなげてない。

玉島の新倉敷駅前付近は比較的、空き地や駐車場等が多いが、倉敷の街中はすごく混んで、マンションも増えている。マンションはすぐできても、その他のインフラ整備が追い付かず、さらに人が増えてアンバランスな発展になっている。まだ大型開発もある中で、どうバランスをとっていくのか、非常に難しいと思う。

大学生のアンケートも興味深い。会社の中途採用で、出身や大学が倉敷に縁のない人が応募してきたが、倉敷には人を惹きつけるポテンシャルがあると感じ、地域をどんどん活性化していくことにつながるのではないか。

委員 あまり難しいことは言えないが、資料の中で、安心と安全のところが一番気になった。自主防災組織率が全国的にまだ低いとあつたが、

でも倉敷だけ見ると、随分、昔よりは上がっていると思う。もう少し全国レベルに上げてというところと、ただ、防災組織を作っただけで、活動ができていくかどうかというところもすごく気になる。自分たちのまちを自分たちで守っていくという意識づけだけでなく、中身をしっかり作っていかなくてはいけないという思いもある。

高校生・大学生のアンケートにも安心・安全だからという言葉があったが、自分たちで安心と安全を作っていくという意識づけがもっともっと必要だと思う。

あと気になったのが、リサイクルの関係。数字的には随分できているようだが、よその地域は、有料や、細かい分別だったりするところが、倉敷は、燃えるごみ・資源ごみ・埋め立てごみなど大雑把な分別で、無料で回収してくれる。もっと将来のことを考えるなら、意識づけのために踏み込んだことも必要では。

分科会長 | では、引き続き、意見交換や補足説明を。

市 | 事業ごみの総排出量が、なかなか減らない要因について質問があったが、私どもの審議会でも、この原因と対策についてしっかりと話し合っているところだ。

事業ごみは景気に左右されやすいと、一般的には言われるが、それだけでは問題は解決しない。まずは、事業ごみの排出者、代表店舗などに、ごみと資源の分別指導に行ったり、事業者のパッカー車が焼却施設でごみを捨てる瞬間を、高感度カメラで撮って、段ボールが混ざっている場合など、そこで指導をしたりしている。焼却施設にも、「資源ごみを入れないで」と段ボール置き場を作るなど、水際対策もとっているが、なかなか減っていかないという状況だ。

また、全国的、世界的に、食品ロスの問題があり、賞味期限がちょっとでも切れた食品が、衛生上の問題で捨てられている。本来は、食べられない食品は堆肥化などをしたいが、コストがかかり、焼却する事業ごみの手数料のほうが安いという実態もある。そういった要因が重なり、職員のできる範囲内の努力では、なかなか事業ごみが減らないが、今後の施策を審議会でも話し合っているところだ。

分科会長 | 他に何か補足説明等はないか。

市 | 先ほど公共交通の話が多かったが、今日は担当部署がないので直接的な説明はできない。都市計画課とか事業推進課などで何かないか。

市 | 公共交通については、都市計画でも大きな問題として捉えている。路線バスの本数が減少していく一方で、今後、高齢者が増え、自家用車に乗れなくなるなど、公共交通、特にバス利用が重要と考えている。交通事業者から話を伺うと、今、自動運転などの話もあるが、その実現の前に公共交通の担い手（ドライバー）不足が目に見えている。賃金や、労働時間の問題もあり、新規就職でドライバーになりたい人があまりいない。たとえばパイロットなど、憧れる職業になればよいと思うが、そういったことも考えていかなければならないと言っていた。

利便性の面では、これだけキャッシュレスの時代で、臨海鉄道はICカードが使えない。整備を行って、少しでも利用が増えるようにし

ていかないといけない。

また、バスの本数は利用者が少ないから減っているわけで、多くの方に使っていただきたい。そのためには、行政と事業者の両方で、まずは路線を維持していくこと、それから充実する路線を考えていく必要がある。

市 保育園の話は第1分科会なので、今日は担当がいないのでできない。そこで、まず自主防災組織について、次に、水道管について説明をお願いしたい。

市 自主防災組織のカバー率は73%強だ。平成30年に真備で大きな水害があり、その後、自主防災組織が増える傾向がある。しかし、先ほどの発言にもあったように、組織を作ったものの会長さんが代わったら活動が続かないというのが、半分くらいあり、活動の活性化についてもあわせて取り組んでいる。

分科会長 カバー率73%とは、どういうことか。比較してということなのか。

市 消防庁が数字の基準を決めているが、例えば、西中新田地区に、多分2,000世帯、何千世帯かあるが、その中に100世帯でもいいから、自主防災組織ができると、西中新田全体をカバーするという数字となる。そのため、昔は、倉敷市は、カバー率でなく、組織率を用いていたが、組織率でいうと60%を切ると思う。

委員 そもそも、自分が組織に入っているのもわからない人がいる。

市 小さい町村ではもう100%になっているが、要は、小さい町で、一つ自主防災組織があれば、その町は100%とみなすことができるということで、この数値で全国的に比較するのは、かなり危険だ。

市 そうすると、今は、何か別の指標を考えているのか。

市 消防庁からこういう統計をいう指示が来ているので、この数字は出そうと思っている。ただ、今、取り組んでいるのは、もちろん数は増やしていくが、活動の中身、実体のほうに重きを置くべきだと。細々でも、毎年活動していただくという啓発をしている。地区防災計画という新しい取組を始めていて、そちらで、個々の自主防災組織の活動の充実を図っていきたいと考えている。

市 先ほど委員の皆様から、和歌山市の水道管の話に関連して、倉敷市の水道の話があったが、倉敷市においても、確かに不安はあり、資料「現状・課題分析」の63、64ページにあるように、水道施設の耐震化が喫緊の課題だ。昨年度末に策定した、くらしき水道ビジョン-2019-は、今年度から10年間の耐震化や水道経営の効率化などのビジョンをまとめており、施策を進めているところだ。また、そのために昨年1月、水道料金を改定し、市民の皆様にも負担をお願いしている。

分科会長 他に、倉敷の北と南の分断による交通渋滞についてはどうか。

市 倉敷駅周辺総合整備計画では、交通やまちづくり、防災面の話もある。駅の北側が防災公園で、緊急避難所になっているが、南側から行くのに線路で分断されている。渋滞緩和に加え、そういった点からも、早期の鉄道高架事業が必要と考えている。

分科会長	未婚・晩婚については。
市	<p>結婚の希望をかなえるということで、一昔前では考えられなかったが、5年前から婚活イベントを市の事業として実施している。</p> <p>コンビナートでは男性が多く、医療現場等は女性が多いが、出会いの場が少ない中、企業など大手の事業者にもチラシでPR等している。高梁川流域という広域で取り組み、結婚相談所の利用者も1割が倉敷市外の方のため、出会いの可能性も増えている。ただ、全体の人口からすればまだわずかなので、もっと成果を拡大することが課題でもある。</p>
分科会長	マンション建設に伴うインフラ整備については。
市	<p>倉敷市のまちづくり、都市計画の基本としては、倉敷駅周辺を広域拠点として位置付け、各地区の拠点を公共交通で結び、連携を強化するまちづくりを進めることとしている考え方。地区ごとに、特性や人口規模が違うので、必要な都市機能も違ってくる。</p> <p>倉敷駅は本市で一番の核となる場所で、マンション需要が多く、そのことが良いのか悪いのか、いろいろ議論はあるが、都市機能を集積し、まちなかに防災性・利便性の高い居住環境を創出することは必要と考えている。ただ、高さの話として、美観地区からの眺望保全など、景観と調和するまちづくりは、現在も行っているが、今後でも取り組んでいく必要がある。</p>
分科会長	ごみの分別については。
市	<p>3R、リサイクルについては国がものすごく力を入れている。他市でも、例えば、プラスチックごみを分別・再利用し、公園のベンチなどに作り変えている事例がある。現在、倉敷市では、プラスチックごみは燃えるごみとして回収していて、特にペットボトルについては、ステーション回収や、PTAや町内会の集団回収をお願いしているところだ。まず、ペットボトルの分別回収をしっかりと徹底してから、ごみの減量状況や、他市・国の動きを加味しながら、考えていきたいと思っている。</p> <p>また、プラスチックごみは、海ごみの問題と関連があり、大きな環境問題であるため、ポイ捨てしない対策や資源化に取り組む必要があるという認識は持っているが、まだまだ議論が先に進んでいないという現状だ。</p>
市	今後10年を見越して、こういう計画に触れていくべきというご意見はないか。
委員	「現状と課題」41ページが一番重要だと感じている。人口が減り、公共交通の担い手もいなくなるという中で、人口20万人以上で倉敷の人口密度が一番低いと今初めて知ったが、今後10年、コンパクトシティ化で集中させていくことが必要ではないか。倉敷駅前ばかりにマンションが建ち、人口が集中すると、保育園や学校が急激に足りなくなり、あわてて学校等を作っても、すぐに減っていくと思う。拠点を決めるのはもちろんだが、コンパクトシティ化のために計画しようということはあるか。
市	コンパクトなまちづくりについては、法の規制ではなく誘導により

	<p>すすめるものだ。といっても、単にお金をあげるということだけで誘導するものではない。各地区の拠点を形成するために、民間（都市機能）が駅近くに移ってくると、その周辺に住民（居住機能）も移ってくる。そのためには、民間を誘導するためのインセンティブが必要であり、国は税制や金融上の措置など様々な取組を示している。また、即効性はないが、市民などにコンパクトなまちづくりの方向性を示したうえで、それらの取組をわかってもらうことが一番大事だと思っている。</p>
委員	<p>例えば、学校の再編成、病院、公共施設、図書館などをどう配置していくのかということも、まちづくりに向けた計画として入れてほしい。</p>
分科会長	<p>他に何かないか。</p>
委員	<p>昨年の台風 15 号で、特に千葉県では大停電が発生した。資料には無電柱化があり、国の補助も計画されているようだが、倉敷市では今後の無電柱化はどのような計画か、わかる範囲で教えてほしい。</p>
市	<p>「現状と課題」57 ページの無電柱化だが、これまで倉敷市での無電柱化は、景観に配慮して、美観地区や新倉敷駅前にて、主に景観的な面を考慮して無電柱化を進めていたが、昨今、地震や台風等による電柱の倒壊も多く、災害への備えも必要な時代。倉敷市でも、今年度、無電柱化推進計画を立て、今後対策を進めていきたい。</p>
委員	<p>この先 10 年で自動運転も進むだろうが、計画のどこにどう入れるべきか。</p>
委員	<p>今朝、NHK で、交通渋滞の信号機に、テレビカメラを取り付け、AI でコントロールするという話があった。渋滞や防災面で監視カメラを整備してはどうか。</p>
市	<p>監視カメラについて、各河川にカメラを付けて、増水時の水量を把握し、災害を未然に防ぐという話を聞いた。監視カメラも、今後 10 年ですごく増えてくるだろうし、行かなくても、集中的に情報が集まるシステムができればいいと思う。</p>
分科会長	<p>AI の活用が進むことは予想されるが、雇用が減ることはないか。</p>
市	<p>AI に関しては、たとえば、窓口サービスの AI 対応や、公共の建物をドローンに搭載したカメラで判断するとか、道路の補修箇所を点検するなど、AI にどんどん学習させて精度を上げていくことで、この 10 年は実用化に向けてより進んでいくのではないか。公共交通や自動運転に限らず幅広い分野で取組を進めていくことで、人口減少などの課題にも関わってくるのでは。</p> <p>「現状と課題」73 ページは、第 5 分科会でも話があったが、今年、耐用年数を迎える倉敷市の施設が、人口 25 万人以上の市の平均面積と比べて 1.59 倍とたくさんあり、インフラ施設で一般的な耐用年数とされる 40～50 年を間もなく迎える。</p> <p>今ある公共施設をこのまま維持するには、現在の経費の 1.7 倍まで費用が増える。また、現在の維持経費のまま、管理を続けていくと、施設のうち約 42%は維持できない。現在の施設を 6 割に縮小しないと、お金がない。つまり、インフラ、公共施設、いろいろなものが今後は維</p>

持できないということだ。

今まで倉敷市は、8つの地区を拠点に、ずっと押し並べて、どの地域も特色を生かして発展をしてきた。人口が減少する中で今後10年を見据えた場合、今ある施設を全部維持していくのか、それとも選択と集中、やり方を変えないといけないのではという、その辺の視点が、早期に必要ではと思う。委員の皆さんもそれぞれの立場やご出身によって、いろいろ考えがあると思うがどうか。

委員 絶対的に削減、数を減らすべきだと思う。人口は減っていて、先ほどのコンパクトシティの話でもないが、いろんな所に作っていたら、どうしても人口密度が分散してしまう。学校・幼稚園がやっぱり施設の多くを占めるので、たとえば、小学校二つと中学校一つを小中一貫校にすれば、三つ分の費用の二つ分が削減できる。そういったやり方で減らしていくしかないのではないか。地元の小学校をなくしたくないという気持ちはもっともだが、30年後という点を見据えて考えると、それだけでは滅亡してしまう状況に来ていると思う。

分科会長 その一方で、保育園等は足りないという状況もあるのでは。

委員 場所によってすごくばらつきがある。倉敷の中心部では、保育園が足りないし、他地域では園児募集、誰か来てという状況だ。都市計画で、選択と集中をしっかりとやるべき時が来ていると思っている。

委員 中学校単位での、小・中学校の統合もあるだろうし、幼稚園の統合もあると思う。いずれは、保育園・幼稚園・小学校・中学校を1か所にとせざるを得ない状況になるかもしれない。そうならないように、若い世代には、いい相手を見つけて子育てに励んでいただけたらと思う。

委員 公共施設は、例えば、三つの施設を一つにして建て替え、その中に三つ入るなどしているか。減らしていくには、複合化施設の方向しかないと思う。

委員 もともと合併でできた倉敷市なので、各地区それぞれに単独の施設があって、多くなっている。しかし、もとの市町が合併したので、施設も統合せざるを得ないのでは。一部の方の不便さは増えると思うが、大手の企業も生き残るために、合併や統合などを行っている。

委員 そうしてもらわないといけない。

委員 選択と集中は進めたほうがいい。働ける環境もなくなる程度に、ITとかAIで人が頼れる部分はしっかり頼る、そこが一番大事だ。

自動運転については、自動運転をしていい人と、して危ない人もいると思う。自動運転が便利なので、高齢者の免許返納を遅らすということでは、我が家のことを考えても不安なので、その辺りは考えてほしい。

#### 4. その他

次回の日程について

#### 5. 閉会